

京都薬科大学バイオサイエンス研究センター

2014年4月1日

京都薬科大学では1981年に建設された鉄筋コンクリート3階建の動物研究センターが約30年にわたって動物実験施設として機能してきましたが建物の老朽化が著しく、現在では一般的となっているSPF*レベルでの運用が困難であるため、2012年2月、南校地にバイオサイエンス研究センター(BSRC)を着工し、2013年6月に竣工、9月より稼働しています。

2011年10月に京都薬科大学動物実験実施規程(機関内規程)が制定され、実験動物の福祉と動物実験の倫理に配慮した実験が行われるように動物実験委員会が、動物実験の3Rの原則**(Replacement, Reduction, Refinement)に基づき科学的・倫理的な観点から動物実験計画書を審査し、実施されるようにしています。

* SPF: Specific Pathogen Free の略で定められた細菌・ウイルス・寄生虫等がない状態。

** Replacement ; 動物を用いない代替法を利用する。

Reduction ; 使用する動物の匹数を減らす。

Refinement ; 動物に与える苦痛を軽減する。

・BSRCの建設にあたっての基本的な考え

BSRCは地球環境・近隣環境に配慮し、キャンパス景観の向上に資する環境調和型施設として建設されています。設置にあたっては、

- 1) 先端的研究の実施が可能な機能・品質・効率に優れた動物実験研究施設
- 2) 研究内容の変化に対応し、稼働しながら機能更新可能で寿命の長い施設
- 3) 知の創造拠点にふさわしい衛生的かつ安全な空間を備えた費用対効果の高い施設

であることの3点が考慮されました。

BSRCはより適正な動物実験が遂行されることを目指しています。